とさいろ

TOSAIR

高知の次世代を育むマガジン

きらり、高校生！
高校生17人の生ボイス
輝いている高校生、キャッチ！

高校生をリサーチ！
高校生の高知♥(ラブ)度

おとなだって……！
高知で仕事を創る
今、大人たちがすべきこと

ーとさいろ発信!!

高校生生ボイス

僕たち私たち、高知育ち!!
生粋の土佐っ子高校生が、
いま夢中になっていること・将来の夢、叫びます!!

目指せ！セレブ！

じゅんな

お金持ちと結婚して、
毎日ケーキバイキング、
月に1回は旅行の生活。

がんばるぞ！

NPO

しっかりしてるな～

いちょん

将来はNPOで働きたい

経営者になるぞ！

まよ

自分でお店を開いて、
そこでピアノを弾いている。

小説家になりた～い！

今日はブラブラ～

國澤優花

物語を書くことが大好きです。
本を読むのが好きで、頭の中にある世界を
組み立てて文章にすることを、
いつの間にか始めていました。

うおおお～
勉強も一番じゃ～！

大杉晃太郎

今熱中しているもの…それは勉強。

書道ガールです！

あみ

書道部。字を書くのが楽しい♪

Doki Doki

川がきれい

10年後、こうなりたい

息抜き大事！

入交萌

高知にいてバリバリ働いて、
休みには友達と海外に旅行したい。
たまーの休みにうんと遊ぶ！

高知ラブっす♥

山脇くるみ

住み慣れた高知で
服飾の仕事したい

きゅん きゅい～ん

タムタム

東京でギタリスト

もう一本へ～い！

高橋昂也

トリマーになりたい。
牛、豚、鶏、山羊に羊、動物に触れあえる
畜産科は楽しいです。
特に豚がお気に入り。

レットイットビ～

りく

Yoko Ono

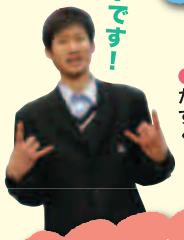
オノヨーコのアシスタント。
ニューヨークで
個展開こうかな(笑)

国際派！

ひな

世界中を周っている

これに夢中です



喉が大事です！

たすく

フォークソング部でボーカルを担当。
プレッシャーはあるけど、
一番注目してもらえる、そこが楽しい。

TRAVEL

鳴瀧

オーストラリアに1年滞在、
外国人の友達100人います！
英語の勉強をこれからも続けるぞ！

どりゃあああ～

スッ

ボールが当たる！

まっちゃん

ソフトテニス。ペアと息を合わせて、
タイミングをあわせて動く、
奥の深いスポーツです。
ペアとの信頼感がものをいう。

テニプリ♥

はづき

ミュージカル『テニスの王子様』に
はまってる～！城田優がカッコイイ!!

アニョハセヨ～！

和田綾花

韓国ドラマ！　体験したこともないけど、
お母さんが学生だったときのこととか、
なんとなく雰囲気でわかる。昭和、いい!!

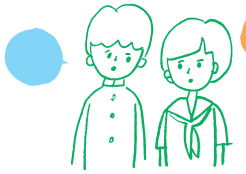
ほにゃらら～
ほにゃら～

サボテンです

CONTENTS

とさいろ TOSAIR

高知の次世代を育むマガジン



とさいろ発信!! 高校生生ボイス 2

高知の高校生の「高知♥度（ラブ）」～高校生アンケートから～ 6

高知の仕事×高校生
『高知マインド』で
高知の担い手育成プロジェクト 事業報告

●高知のキャリア教育最前線 高知南高等学校レポート 10
職業別ガイダンス
職業人密着取材＆体験インターンシップ

●サマーフェスタ 14

●高校生スタッフKEENOS 18

高知で仕事を創る 22

高校生ページ
とさんぽにっき。 26

輝いてるね！ みんな!! 28

今、大人たちが
すべきこと 30

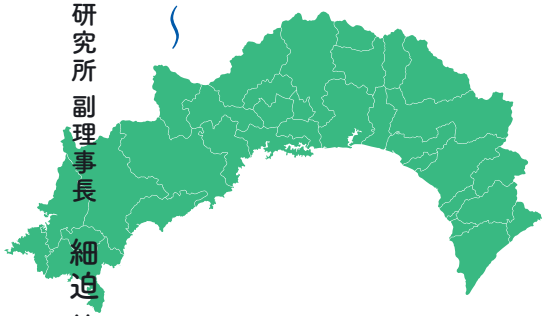
これからのキャリア教育の行方
キャリア教育の新たな段階へ
～中教審答申（2011年1月）を読んで 34

青く広い空
紺碧の海
深い緑の森
太陽の色を映した果実……
土佐には恵みの色があふれています。

そんな土佐で育つ子どもたちが
自分の色を輝かすことができますように。

高知の高校生の「高知♥度（ラブ）」
～高校生アンケートから～

NPO法人 人と地域の研究所 副理事長 細迫節夫



今の高校生は、何を見、考え、将来を思っているのだろうか――。

NPO法人 人と地域の研究所は二〇一一年一月から三月にかけて、高知市の委託事業の一環として市内の高校に通う高校生にアンケートをおこなった。回答は、高知市にある高校17校約一万一五〇〇人のうち、14校一四五〇人一割以上のかなり広い範囲の協力を得ることができた。

アンケートからは、興味ある結果が見られるが、ここでは高校生の「高知への思い」について触れてみたい。

今の高校生は「高知が好き」、でも「出たい」

今の高校生は〈高知〉をどう思っているのだろうか。まずは、「高知好き度」をチェック。「とても好き」と「どちらかと言えば好き」を足すと、高1・2では72.7％、高3では75％と、高知の「好き度合」はかなり高かった（図1）。今の高校生は高知を誇りに思う気持ちが潜在的に強くある……？

一方、「高知を出たい」と思ったことがある人は、高1・2で73.5％、高3で77％と、これまた4人のうち3人が「出たい」と思っていることがわかった（図2）。

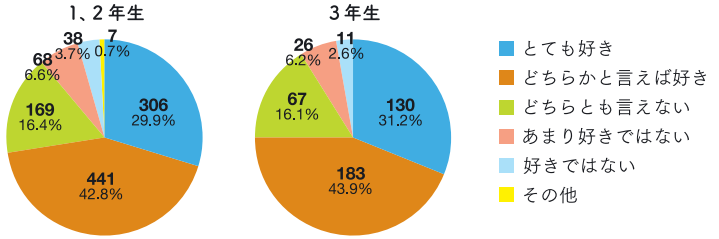
「好き」だけど「出たい」。この一見矛盾した結果は、「心では地元志向、本音は都会志向」と言えなくもないが、出たい理由を見てみると、「スキルアップしたい」「一人で生活したい」という自立型も多く、一度は外へ出て今までと違う刺激を受け、学び、自分を高めたいという思いも見て取れる。

高知へ「戻りたい」そして「仕事をしたい」

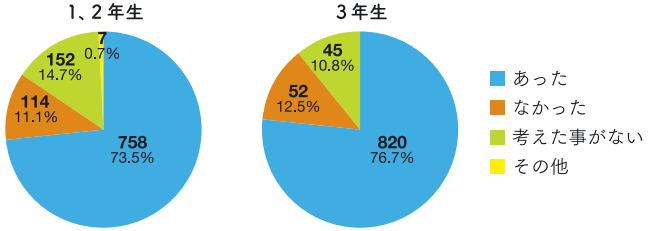
では、一度県外へ出た後のことを、どのように考えているのだろうか。高知に戻ってくる意思をチェック。「いずれチャンスがあれば高知に戻りたいと思っている」高校生は、高1・2年で44.8％、高3年で49％にのぼった（図3）。

その戻るタイミングはどんな時と思っているのだろうか。高1から高3へ進路選択が明確になるにつれ、つまり進学や就職で「県外」へ出る可能性が高くなるほど、「仕事に就く」というなるべく早いチャンスに「高知に戻りたい」思いが強くなると想定していることがわかる（図4）。

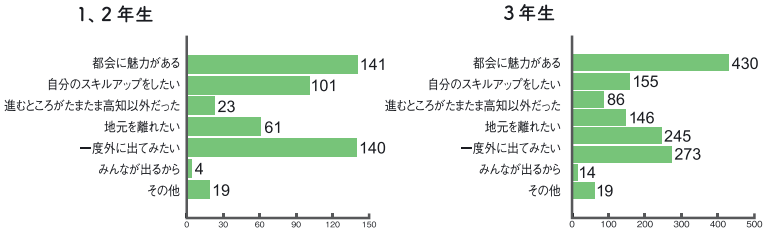
Q 今のあなたは高知がどの程度好きですか？（図1）



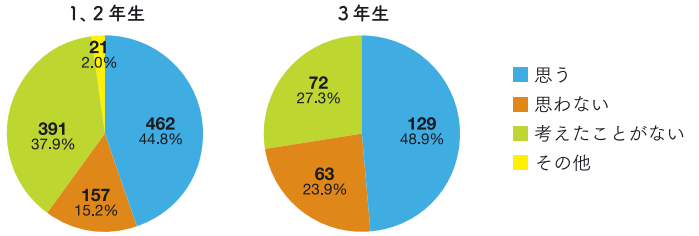
Q これまで「高知を出たい」と思った事はありましたか？（図2）



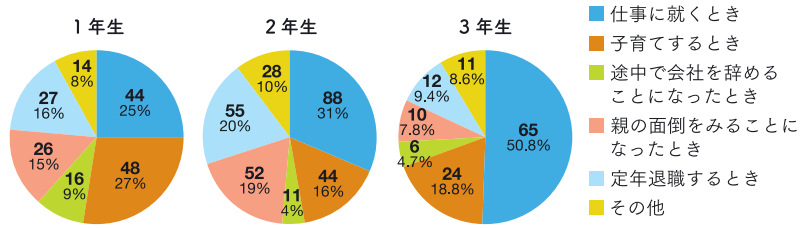
Q その理由は何だと思いますか？（いくつでも可）



Q いずれ「チャンスがあれば高知に戻りたい」と思いますか？（図３）



Q チャンスとはどんな時期ですか？（図４）



そして、単に戻るだけでなく「高知で仕事をしたい」と考える高校生が、これまた同じように半数ほどいる（図５）。かつての統計がないので比較しようがないが、「高知で仕事をしたい」高校生（高３）が半数いる時代はなかったのではないだろうか。今日、都会の魅力は減っているのだろうか。

実際、「田舎が好き」「都市部が好きでない」層は非常に多いが、そればかりか「やりたいことがある」「高知を盛り上げたい」の合計（複数回答）が高１・２年21.2％、高３年26.7％あり、自己目標の達成や地域の活性化に積極的に参画したいという気持ちを見て取ることができる。高知へ戻りたい、仕事をしたい層が50％近くいるという意味では、今は大きなチャンスの時であるように思われる。

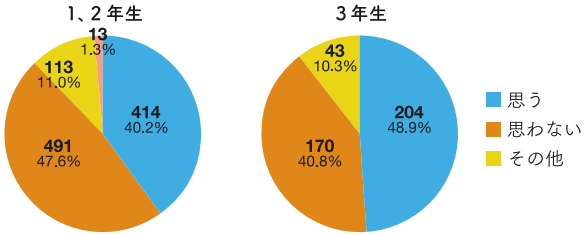
高知で仕事をつくる

高校生の潜在的な意識として「高知で、地域や人に役立つことをしたい」との思いがある一方、「戻りたい」が「戻れない」、「仕事をしたい」が「仕事がない」現実があるのも事実である。しかし、これまで大人側が使ってきた「仕事がない」という自虐的な言い方をそろそろ止めて、「仕事」を大きなテーマとして、高知の行政人、企業人が〈私たち、大人ができること〉を真剣に考えないといけない時期が今なのだと思えてくる。

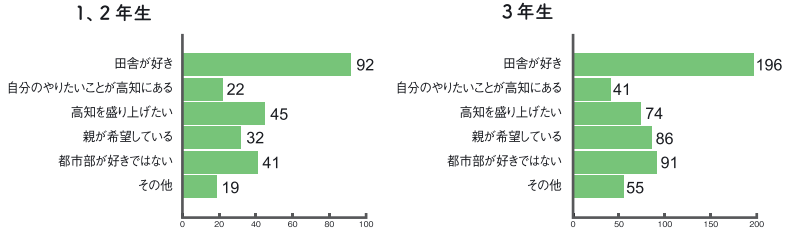
私たちＮＰＯも微力ではあるが、取り組みを始めている。

- 高知が好きな高校生にもっと「高知を知る」機会を増やすべく、高校生と一緒に社会人セミナーやインターンシップ、サマーフェスタなどをおこなった。
- 進学・就職などで県外に出る人に高知情報を流し続けることで「高知が好き」意識がなくならないように、「アイラブ高知クラブ」などインターネットでつながりを維持する仕組みをつくろうとしている。
- 「戻りたい」時に戻りやすい、迎え入れやすいルートや環境をつくるため、高知の企業や仕事を紹介する「Ｇ-ｍｏｔｔｏ」という高知の企業紹介誌をつくることもすすめている。

Q「高知で仕事をしたい」と思いますか？（図５）



Q その理由は何だと思いますか？（いくつでも可）



大人ができること

未来の高知県のために、高校生を対象にした気の長い取り組みが求められている。高知県の子どもたちは、中高への進学で郡部から市部へ出、就職や進学をきっかけにいったん県外へ出てしまうと、なかなか戻れない構図が長期間固定してしまっている。結果的に、高知県全体で若者が流出し、人材不足が起きている。

当研究所は、高校生支援と仕事づくりを、高知の社会人、企業人と協力・協働しながら広範囲に進め、地域づくり、産業おこしなど地域の再生に必要な、「好きだからがんばる」思いから生まれる持続する活力を創っていきたいと考えている。

職業別ガイダンス「高知の職業人を知ろう」

2011年6月28日(火)、高校1年生(6クラス210人)のホームルームの2時間を使い、「職業別ガイダンス事前学習」を行いました。

ねらいは、様々な職業人の経験に基づいた話を聞き、仕事の楽しさや難しさなどを学ぶ事により、職業意識を高め、将来の進路選択のきっかけ作りをする、というものです。

そこで講師には、高知で頑張っている人、県外に出てまた高知へ戻ってきた人、高校生に近い年代の人、高校生に人気のある職業や業種の人……などの観点で絞り込んでいき、6人の講師の方たちが協力してくれることになりました。

高校生と近い年代の高知大学の学生がインタビュアーとして参加することで、教室全体の和やかな雰囲気作りもおこないました。

魅力的な6チャンネル

6クラスに講師(職業人)とインタビュアーとして大学生が一人ずつ入り、大学生が講師へインタビューをするかたちで進めていきました。それぞれの職業観や人生観についての話に、生徒たちは真剣に耳を傾けました。時折笑い声も起こり、楽しいガイダンスになりました。

講師紹介

職業人01

伊勢 努さん TOHOシネマズ高知副支配人

31歳。宮城県仙台市出身。TOHO入社後は各地を転勤し、高知に配属。スタッフから仕事に対してとても「熱い人」と信頼されている。2010年の高知新聞「ただ今修行中」に掲載。

職業人02

藤原 健一さん 「MUKU48」家具職人

オーダー家具と植物それらにまつわる雑貨のお店「MUKU48」のオーナー。

職業人03

宇佐 慎介さん Opusイオンモール高知店 ギター講師

31歳。人気のあるエレキギター講師。高知市生まれ、高知学園中・高校卒、京都佛教大学英文科卒。大学卒業後しばらくは大阪に居た後、Uターン。郵便局員などを経て、ギター講師となった。

職業人04

畠中 淳子さん 「カフェ・デュ・グラス」店長

素材を大切にし、高知にこだわってアイスクリーム専門店をオープン。高知大で“起業マインド”の講演経験あり。

職業人05

前川 やよいさん SeaProof (珊瑚加工・販売)

宝石珊瑚業界の若手グループでブランド「SeaProof」を設立。新しいアイデアやデザインなどを展開し、高知の珊瑚文化を受け継いでいこうと頑張っているグループ。

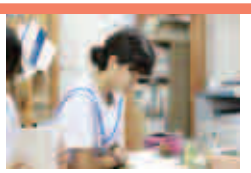
職業人06

小松 直貴さん 美容院ピアリ 店長

39歳。高校卒業後、関西に出て、10年働いたのち高知に帰る。若手の多い美容院の店長。お客様は高校生から年配の方まで幅広い。将来は出張美容院なども考えている。

生徒たちの感想

終了後、生徒にアンケートをとりました。インタビュー形式での講義は初めてでしたが、約80%が「良かった・まあ良かった」と好評で、講師の職業については約68%が「良く分かった」ということでした。また、「進路を決める参考になるか」の問いに37%が「とても参考になりそう」と答えてくれて、このような「職業別ガイダンス」を実施して良かったと思いました。



職業人密着取材＆体験インターンシップ

TOHO CINEMAS KOCHI internship

6月に高知南高校で実施した「職業別ガイダンス」を経験した高校1年生に、TOHOシネマズ高知へのインターンを募集。すると、国際科1年の女子生徒2人が「やりたい〜！」と応募してきました。

夏休みの8月22日から26日の5日間で実施。このインターンは、「取材」と「体験」を組み合わせたもので、これまで高校で実施している「職業・就業体験」とは少し違った、新しいスタイルのインターンシップです。

1日目 取材セミナー

初日、高知市内の出版社に出かけたインターン生は、緊張気味。

編集者から取材のポイントや大切なことなどのレクチャーを受けると、さっそく大学生への取材を体験しました。

「大学生と一緒に練習ができて楽しかった」と、まずは取材入門をクリア。取材慣れすることができました。

2日目 取材体験

さて、本番はTOHOシネマズ高知の副支配人・伊勢さんが取材相手です。男性だし副支配人だし……「怖い人だったらどうしよう」と、やや心配。でも、

伊勢さんはやさしく2人の質問に応えてくれました。緊張も解け、会話がはずみます。用意した質問以外のことが聞けたり、自分のことが話せたり、楽しく会話のキャッチボールができました。

前日、編集者から学んだ「取材とは質疑応答でない」ということが実践できました。

3日目 職業・就業体験

インターンの課題は、シネマズの従業員さんたちがふだんしていることを実際に自分も体験して、前日聞いた伊勢さんの話を深く理解すること。

6つある映画館の掃除などの仕事をこなすのは、「腰が痛かった〜」。でも、ふだん見ることがないフィルム室など、裏側の世界にも触れることができました。

シネマズの方たちは、「よく働いてくれました」と2人の働きをねぎらってくれました。

「1日仕事を体験して、お客さんが笑顔でありがとうなど声をかけてくれる時、ほんとうにやりがいを感じました。その時、伊勢さんの話していたことがすごく分かりました」

取材で聞いた伊勢さんの言葉が、リアルに実感できました。

4日目 まとめ・プレゼン準備

3日間の体験をまとめ、最終日の発表の準備のため、再び出版社に出動。

すでに出された課題に対してメモをつくってきていたので作業はスムーズに進んでいきます。まず、2人それぞれのテーマを決めた後、10項目くらいの展開を考え、パワーポイントに文字を入力していきました。

編集者とデザイナーは入力のしかたや写真の取り込み方などのアドバイスはしますが、どう展開していくか、何を表現するかはすべてインターン生たちでつくっていきました。

5日目 プレゼンテーション

いよいよ発表の日を迎えました。

じゃんけんで発表の順番を決め、1度リハーサルをした後、TOHOシネマズの伊勢さんを含む3人の方とNPOスタッフ3人を前に発表を行いました。1人が発表し、1人がパワポを操作するというスタイルです。

2人はドキドキしたようですが、アドリブも積極的に挟んで、勇気を振り絞った発表でした。

プレゼンが終わると、シネマズの方々が質問や感想を述べてくれました。「えっ、伊勢さんのそんな面、初めて知った」という同僚の方の声や、「大人の発表に劣らないな！」という伊勢さんの言葉をもらい、インターン生は嬉しそうな笑顔を見せました。

感想

Mさん「体験は、普段できないことばかりでとまどうことが多かったけど、TOHOシネマズの方々が優しく教えてくれて、とても楽しく仕事ができました」

Yさん「一番楽しかったのは職場体験です。一番大変だったけど、いろんな仕事が体験できてよかったです。普段は入れない所に入ったり、貴重な体験をさせてもらいました」

伊勢さん「インターンは中1から高2くらいまで受け入れていますが、職場体験が1日だけというのも、8時間だけというのも初めて。インタビューがあり、体験があり、発表があるという段階を踏んでいるのは面白かったです」

高知の仕事 × 高校生

「高知マインド」で
高知の担い手育成プロジェクト

サマーフェスタ

2011.8.1(月)−5(金) こうち男女共同参画センター ソーレ

高知で頑張っている人、社会で得たスキルやマインドを若い人に伝えたいと意欲的な人……そんなステキな社会人12人の「生き方や学び」に出会うチャンスを、ぎゅっと 5 日間 11 講座のプログラムにつめて開催しました。

高校の夏期講習や部活動の大会などと重なっていたため、各講座10人ほどの参加者でしたが、講師と参加者との距離が近い分、アットホームな雰囲気で会話のキャッチボールもできました。実際に製作したり、持ち込まれた作品に直接触れたりできた講座もあり、「とても楽しかった」と、どの講座も参加者は大満足でした。

高校生スタッフが大活躍!

サマーフェスタを成功させるために、高校生スタッフは、帯屋町での呼びかけにも参戦しチラシを配布しました。当日は会場の準備作業から受付と司会、後片付けまで5日間みっちりと運営スタッフとして活躍しました。

「初めてでドキドキする」と言っていた司会も、本番になると堂々たるもの。「やりがいがあって楽しかった」「もっといろんな高校生にいろんな講座を体験してほしい」——役割を終えての高校生スタッフの感想でした。

8/1(月) 講談師 小浜亭 馬楽
本当の長宗我部元親

戦国ブームで、ゲームやマンガなどで人気のある長宗我部元親。どうして四国統一できたのか、姫若子と呼ばれていた頃や武将らしからぬ行動と趣向など……ゲームやマンガでは描かれていない、本当の長宗我部元親を語っていただきました。地元の武将について、少しでもわかってもらえてよかったと思います。

空間をデザインする
建築家 川西 康之

土佐くろしお鉄道中村駅のリノベーション(改修)に込められた思いと手法には、駅と街と人を結ぶ原点があり、見た目だけのデザインから利用する人のことを考えたデザインの重要さを話していただきました。進路を決めるためにとても参考になった、という高校生もいました。

8/2(火) 竹林寺の僧侶と語ろう
竹林寺僧侶 内田 龍雅

僧侶の生活や衣装の紹介、留学経験において海外から見た日本について、お寺に来るたくさんの人たちのことなど、大学生のインタビュアーを交えて、楽しく語っていただきました。堅苦しいと思っていたお寺が身近に感じることができました。人生についてのアドバイスは、高校生の心に響いたことでしょう。

【国語】高校教諭 広井 護

『読み』のスリルとサスペンス

文学作品を読む楽しさは、暗号解読の面白さに似ています。表層読みと深層読みとでは物語の捉え方が違ってくるので、同じ作品でも何度も読みたくなります。国語の面白さ、「読みのスリルとサスペンス」を高校生に体感してもらいました。「広井先生の学校の授業を受けたかった」というほど、楽しく学べました。

8/4(木)

土佐の海が育んだ宝石珊瑚

SeaProof 近藤 健治 他

地場産品である宝石珊瑚のことを知ってもらうために、たくさんの加工品や原材料を持ってきていただきました。「造礁サンゴ」と「宝石珊瑚」との違いや、珊瑚を守る活動などの説明の後、珊瑚のビーズアクセサリー作りや珊瑚加工の体験をしました。色々な珊瑚加工品に触れて、楽しんで学びました。時間が足りないくらい、みんな夢中でした。

【国語】高校教諭 藤井千江美

アフリカに思いを馳せてみよう看護師

JICAの医療活動で滞在したアフリカのボツワナとシェラレオネでの現状を話していただき、「今、私達にできることって何だろう」ということをみんなで一緒に考えてみました。改めてアフリカの現状を知ったという高校生が多く、アフリカの子ども達の笑顔が印象的で、その笑顔を守る貢献ができたらいい……という感想がありました。

8/5(金)

【地学】高校教諭 森岡 美和

今いる由来をさかのぼる

地球上で私たちが今いることを共有しながら、地球のことについてもっと知ろう!とグローバルな科学の話をお聞きしました。南極地域観測隊に同行したときの活動内容や、極地生物・オーロラなどの貴重な写真も見せていただき、高校生が興味深く見入っていました。「地震はなぜ起こるのか」という質問にもわかりやすく説明してくださいました。

やっほ～

8/3(水)

映画って、本当に素晴らしいもんですね～

映画館副支配人 伊勢 努

映画館のスタッフの仕事から、スタッフしか知らない裏側の紹介や、お得な情報などを交えて、映画を観る楽しさ・面白さを話していただきました。音響に興味がある、映画館でアルバイトしてみたいという高校生もいて、今まで以上に映画を楽しめそうだという感想もありました。

みませ屋 城下 秀二

ザ・紙芝居!

冬は干物・燻製作り、夏はカヌーインストラクター、今は週1回中学校で臨時講師という講師が、長編大作の紙芝居「ああ無情」(一般名:レ・ミゼラブル)にBGMを流しながらのおはなし。俳優の経験もあるので、声が通る迫力満点の紙芝居に、高校生もスタッフも引き込まれました。

牧野植物園 小川 悠

まるふく農園 楠瀬 健太

人と植物について語ろう

携わった庭園づくりから土や種の話、「人と人」「人と植物」を通じて「生き方」について話していただきました。特製のハーブティーを楽しみながら、「人と植物」について話し合ったり、持ってきてもらった植物に触れて、香りを楽しんだりして、「癒しの植物園」が体感できました。

高知大学大学院生 福田 安武

自然の恵みにありがとう

「自然と遊ぶのが仕事」という、自然児ふくちゃんから、海の幸・山の幸そして、それを上手に活用してきた先人たちの知恵を紹介してもらい、自然の恵みは「自然からのお裾分け」なんだというお話をしてもらいました。自然の中で暮らすのが憧れという高校生もいて、高知の大自然の素晴らしさを再確認できました。

高校生スタッフ
キーノス
KEENOS

「高知を知りたい、社会人と出会いたい、自分を磨きたい」
そんな高校生、集まれ〜！

2011年4月、高知市内 17 校の高校に向けて「アイラブコウチプロジェクト」高校生スタッフを募集しました。エントリーしてきたのは、6校（土佐塾・小津・高知・商業・太平洋学園・丸の内）19人の高校生。チームの名前は、「KEENOS」（キーノス）に決まり、5月から週 1 回のペースで高校生スタッフ活動が始まりました。

応募の動機

- 先生に勧められた
- 高知を活性化させる活動に興味があった
- 高知の存在感を広げるために何かしたいと思った
- 自分自身の人間性を育てたい
- 企画に携わってみたい
- 高知の良いところをもっと知りたい
- 人と話すのが苦手なので、いろいろな人に会って苦手な部分を克服したい

WE ARE KEENOS

活動アルバム

グループ名KEENOSの意味
（K=高知・EE=TEEN・O=OUR・S=複数形）
ロゴデザインは２種類あります

夏の交流会

高知でがんばる社会人の方をゲストに招いて交流

赤岡の弁天座での卒業式

他校の高校生との
交流の場は楽し〜い！

会を重ねるごとに自らの意見を発表できるように変化してきた

メンバーの成長を見てきました

もうすぐ卒業シーズンを迎えます。キーノスメンバーも卒業し、高知を離れる高校生も多いと思います。県外に行き、または高知に残り、やがてひとり立ちしていく中で、この活動が少しでも彼らの人生の選択のヒントとなれば嬉しく思います。そして、後輩たちに受け継がれ、高知の良いところがもっと多くの高校生に伝わり、高知を盛り上げるメンバーの一員となってくれることを大いに期待したいと思います。(スタッフコメント)

「高知の魅力」を発信！

Kochiese 発行!!

高知まっこと えいちゃマガジン コーチーズ

高校生が作る高校生のためのフリーペーパー＜コーチーズ Kochiese＞。

2011年度は3号発行、毎号約1万部を配布しています。

キーノスメンバーは企画・編集会議の中で、どんな内容にするかを話し合い、取材日程を調整し、自分たちで取材に行きます。また、お店などに協賛金のお願いをする営業活動もおこないました。より良いニュースペーパーを作るために「高校生のナマの声を聞きたい」と、自主的に実施した街中アンケート調査では、「緊張した」と言いながらも、見知らぬ高校生にすすんで声をかけました。3号は、キーノスメンバーが学校取材の交渉に行きたいと、先生方に直接交渉する経験もしました。企画会議では、新しい企画やアイデアが次々と出てきて、おとなしかった人もいつの間にか積極的に参加するようになりました。

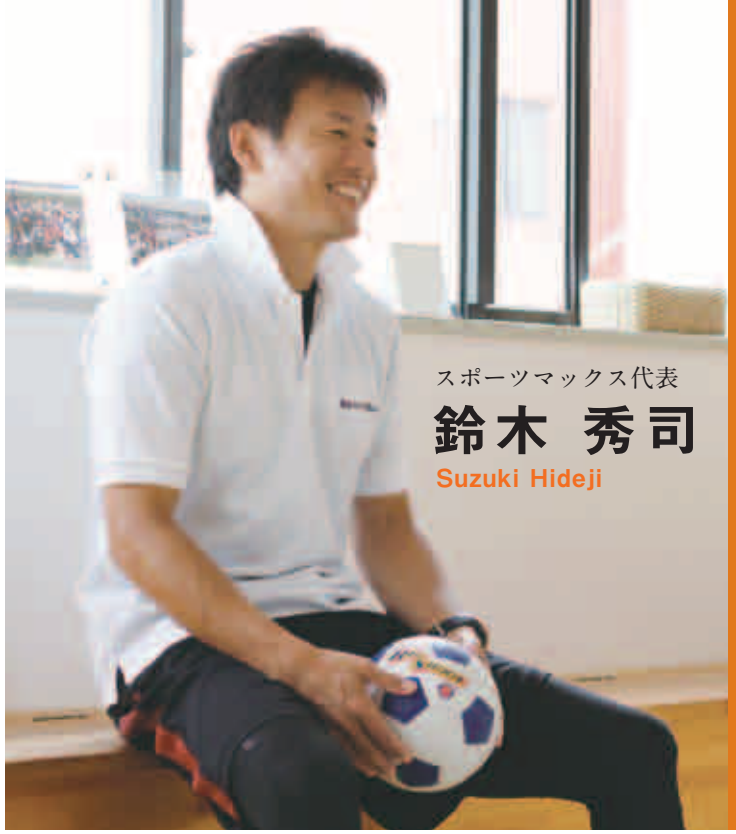
学業やライフスタイルの変化によって参加できなくなった人もいれば、コーチーズを見て参加したいと途中で入部してくれた人がいて、現在は 20 人で活動をしています。

＜コーチーズ Kochiese＞は、「日本経済新聞」「高知新聞」に取り上げられ、またRKC高知放送でも紹介されたことにより、活動が広く知られるようになりました。

interview SPORTS MAX スポーツマックス

高知で仕事を創る

高知には仕事がない、産業が弱いと言われて久しいものがあります。しかし、よく見てみると、「ない」と言われた仕事を創って「ある」に変えた人々がいます。企業への就職もいいけど、なければ創る手もあるということで、創業した人々を取り上げます。「スポーツマックス」を2005年に立ち上げた鈴木秀司さんです。



スポーツマックス代表

鈴木 秀司

Suzuki Hideji

スポーツで子どもを笑顔に高知を元気にしたい

「挑戦したい」気持ちが昂じて

——会社を立ち上げようと思った動機、きっかけを聞かせてください。

僕は静岡出身ですが、縁があって高知に来て棒高跳びをやっていたんです。ちょうど引退して次の年くらいのことでした。日高養護学校で講師をしていたんですが、体育の授業を見てみると、生徒の能力が結構高い。生徒がすごく頑張ってるのを見て、もっと速く走れるのだから正しい動き方を子どもたちに教えてあげたい、という思いが湧いてきました。と同時に、もっと自分もいろんなことに挑戦したい、という思いが入り交じって会社を立ち上げた感じです。

——すごく勇気がいったんじゃないですか？

そうでもないですね。学校とか組織にいたら、「これやったらいいやん」ということがあっても、なかなか形にしにくい。だったら、自分でやったほうが早いやん、っていうくらいでした。

——勝算はあったんですか？

今までになかった職種でしたのでイメージしづらいというのはありました。でも、棒高跳びは自分に自信がないと試合には勝てないので、それがあったのでできたのかな、というのはあります。でも、起業するということは、それで食べていくということ。だから、必死でした。

——少しは頼ったところはあるんですか？

いや、そこは男のプライドとして、「稼ぐからっ！」って始めたわけですから。まぁ、現役時代にマスコミの方とか知り合っていたので、「体育の家庭教師はじめたんですよー」「そりゃおもしろいねー」と、テレビとか新聞に出してもらったり、結構助けられたところはありましたけど……。

——資金は困りませんでしたか？

最初は自分が住んでいたマンションの一室がオフィスだったし、体育はどこで教えるかというと、公園だったり陸上競技場だったり、子どもの家にも行きましたが、体一つでできるので資金はいらないんです。一年くらいで今のオフィスとスタジオを持つようになり、資金は必要になりましたけど。

子どもの笑顔が見られるまちに

——立ち上げる前に悩んだことや不安はありませんでしたか？

初めは、みんなに反対されました。「高知ではやっていけんぞ」「需要がないやろ」と。でも、僕の中では「需要」というのは自分で創り出すものだと思ってたし、それ以上に、文化を変えたいというのがありました。ふつうスポーツって、お金出して教わるということはないですよね。逆に言うと、どうして勉強にはすごくお金を払うのに運動には払わないの？というのがあって、ぼくはそれを変えたかった。海外ではそれって当たり前なんですよ。

——結果は「需要があった」ということですよね。

そうですね。不安という点では、どちらかというと、会社が大きくなるほどに出てきたと思います。一人でやっている時は全て自分の問題でよかったんですけど、お客さんが増えてくると例えばバイトの子に行っ

鈴木 秀司 Suzuki Hideji

1972年静岡県生まれ、1995年日本大学経済学部 卒
1997年入交産業（株）入社、日本選手権「棒高跳び」優勝
2003～04年日高養護学校講師
2005年スポーツマックス創業、2007年株式会社化

てもらうことも出てきて、「ちゃんと同じレッスンしてるかな？」といったことはありました。

――会社の特徴や売りというと、どんなことですか？

会社の経営理念は、「スポーツで高知を元気にする」です。スポーツは、例えば水泳では泳げると○、泳げないと×みたいなところがあって、できない子は嫌いになりやすいんです。ぼくらはそう考えません。その辺で鬼ごっこしてもそれは立派なスポーツだし、それで楽しくなって笑顔が生まれたらそれでいいと思います。子どもたちが笑顔になれば、これからの高知だけじゃなくて日本を含めて明るくなるはずです。

例えば跳び箱を教えるにしても、「こうやったら跳べるようになれるよ」という教え方はしません。どうするかというと、問いかけるんです。「どうしたら跳べると思う？」。すると、子どもは考えます。考えたことがピントをはずれていても、子どもは吸収力が違うのでどんどん入っていきます。そうすると、不思議なもので跳べるようになる。で、「あ、できるんや！」となって変わっていくんです。

ぼくらはスポーツを教えてるんですけど、それはただきっかけで、ほんとは「やればできる」という自尊心を高めていく教育的な部分を担っているんだと思います。「逆上がりができない」「体育もういやや」っていう子を一緒に悩んで一人でも救ってあげたいですね。

――これからのことを聞かせてください。

去年、松山で講演をさせてもらった時、すごく喜んでもらえたんです。ビジネスチャンスがどうのこうのじゃなくて、どこの子も親も求めてるんだなって思いました。

スポーツマックスを立ち上げてて6年、若者の雇用を一人でも増やしたい、県外で勝負したい、という思いがあります。しっかりここで人を育て、教える質を上げて、時期を見てまず四国に出て行きたいと思っています。

SPORTS MAX
スポーツマックス

会社概要 Company Profile

商　号	スポーツマックス
会社名	株式会社ドリームメーカー
所在地	〒780-0834 高知市塚町 3-1DEVA3F
電　話	088-803-7112
ＦＡＸ	088-803-7132
ホームページ	http://www.spomax.jp/
社員数	４名
スタッフ	登録15名
事業内容	

体育の家庭教師／スポーツの個人レッスン
少人数制スポーツ塾／少人数制スイミング教室
各種運動教室／ＰＴＡ親子行事／幼稚園・保育園運動教室／コスケ／各種講演・講習会／スポーツプログラム作成／スポーツ企画・イベント／集客スポーツイベントなど

あなたが高知を元気にする
高知の企業紹介誌

帰ろう！変えろう！高知県
http://www.pref.kochi.lg.jp

G-motto
Introducing Kochi's Industries
ジーモット

We love kochi

地元のことをもっと知りたい！
地元をもっともりあげたい！

2012年3月発行予定!!

G-mottoは、
企業と学生のベストマッチを促す
企業紹介誌です。

「G-motto」は、地元を見つめて生まれました。高知が好きだから、高知を盛り上げたい。人口が少ない、産業がないなど、マイナスなことには無関心です。県外に出てもいい、世界に羽ばたいてもいい。でも、高知とつながり、地元を元気にするため、企業と人が本気でぶつかることをします。

とさいろ高校生ページ

とさんぽにっき。

写真・文　入交 萌

散歩している時に見かけた黒ネコ。
少し警戒していたので、逃げられないように
ゆっくり近づいて、色んな角度から撮っていると、
坂の上からおばあさんがやってきました。
このネコに毎日エサをあげているらしい。
でもネコはまだ心を開いてなく、
近づくと逃げてしまうそうだ……。
そんな2人の微妙な距離感を撮ってみました。

変身

紅葉した葉っぱが、
夕日でさらに紅くなって
昼間とはまた違う表情で
１日の終わりを告げている。

野良通り

落ち葉のじゅうたんと夕日をあびて
まぶしそうな顔で丸くなっている。
ここだけ時間がゆっくり流れているみたいだ。

高知の顔

キレイな色の旬野菜がズラリと並び、
お客さんとお店の人の笑顔が溢れている。
高知ならではの街並み。

輝いてるね！みんな!!

目指せ！一番星！

授業に部活にその他もろもろ、それぞれの青春を疾走中！そんなキラキラ輝いている高校生たちを紹介します。

北本 幸夏
土佐塾高校２年

土佐塾中・高軽音楽部副部長、ブラスバンド部副部長。ライブハウスでも活躍中。

プロの現場で楽しく修行中！

今のバンドではドラムを担当しています。中学からブラスバンドでパーカッションをやっていたので誘われました。本当はギターとかボーカルがやりたかったんですが……。

活動しているライブハウスには純粋に音楽が好きな仲間が集まっているので、共通の話題があってとっても楽しく、スタッフとも一緒に演奏ができ、アドバイスもくれるので凄く幸せ。将来も音楽に関わる仕事をしていきたいです。

谷岡 奈美
丸の内高校３年

陸上部所属の競歩選手。インターハイに出場し、5000mの部で自己記録を更新。

競歩仲間をもっと増やしたい

毎朝自分で朝食を作って５時30分の始発の汽車で登校していました。もともとは長距離だったのですが、記録がのびず、高校１年生の冬に顧問の先生に勧められて競歩を始めました。高校では競歩の選手は自分ひとりなのですが、東高、高知大、大人の人たちとも一緒に練習しています。かなりいい記録を出している人たちにも教えてもらえるし、他の高校生とも交流できて楽しいです。大学に行っても続けていきます。競歩人口が増えるといいな。

佐々木 麻い
土佐高校２年

水泳部所属。全国大会出場、海外遠征への選抜など日本を代表する選手の一人。

県の記録をすべて更新したい

記憶にないほど小さい頃から姉と一緒に泳いでました。現在６つある種目の５つまで県の記録を持っているので、姉の持つ残りひとつを更新することが目標です。大会に出ると友達も増えるし、海外遠征など貴重な体験もできるので水泳を続けてきて良かった。大変だったのは勉強との両立。周りの人の助けがあってここまで来れました。できる限りは水泳を続けていきたいです。

池本 佑哉
小津高校２年

インターハイ常連・小津高校ソフトテニス部キャプテン。19名の部員を率いる。

小学４年からソフトテニス一筋

練習は放課後毎日３時間集中してやっています。１年生11名、２年生８名の部員をまとめるのは本当に大変ですが、全国大会で常に活躍できるよう頑張っています。

目標は世界的トッププレーヤーの中堀成生選手。プレーがすごくかっこよくて憧れです。一度お会いする機会があったのですが、いろいろ話しかけてくれて、人柄もあったかくてますます好きになりました。将来は大学に進学して、勉強もテニスも頑張ります。

西村 陸
和田 綾花
商業高校３年

共に新聞部所属。高文祭において「True idol」というテーマで手作り新聞を作成。

人の輪が広がる新聞作り

新聞部は２年前に立ち上げました。ブログなどをやっていた面白い子を選んでメンバーに勧誘しました。現在部員は15名。皆個性的です。新聞部って少し暗いイメージがありますが、デザインや写真でイメージを壊していきたいです。魅力は取材を通じていろいろな人と関われる事。アポ取りは勇気がいりますが、取材となると自分自身がチェンジして話せます。後輩にも活動を続けてもらい、先生、生徒、保護者の三者の輪が広がるような新聞を作ってほしいです。

今村 愛美
南高校２年

美術部所属。震災をテーマにモニュメント「INORI」を共同制作。高文祭・奨励賞受賞。

好きな美術でエールを送りたい

普段は美術部でアクリルや油絵具を使って１〜２枚の大きな作品を制作しています。共同制作は先輩たちが行っていた伝統的なものなのですが、その頑張っている姿を見て、今回は仲間９人のリーダーとして取り組みました。力を合わせて一つの物をつくるのは楽しい経験でした。「日本を皆で支えよう」という元気なメッセージが伝わるといいな。これからもいろいろな表現にチャレンジしていきたいです。

今、大人たちがすべきこと

自分の子ども時代をふり返り、
子どもたちを見守る中で
大人たちがどうあるといいのか……
しっかり語ってもらいました。

人との繋がりを通して

太平洋学園高等学校ＰＴＡ会長
山下 純子 さん

悩んでいる時は、人との繋がりで支え合うことが大事。そうすることで気持ちが楽になり、楽しく考えられるようになることを、親の姿を通して子ども達に見せることが大切だと思っています。

学校では保護者の方との交流の場があります。話し合う機会があることで、共感でき繋がりが持て、お互いがあったかい気持ちになれます。

うちでは「風呂当番」、「台所当番」など家事を分担して当番制にしています。当番制にすることにより、一人ひとりの負担も軽くなり、お互いを思いやる気持ちが芽生え、家族も繋がっていくことになります。

子どもたちには、人との繋がりを通して、感謝する気持ちを伝えられたらと思います。

様々な自己表現方法に出逢ってほしい

ライター&コーディネーター
松田 雅子 さん

自分の高校時代は初めて誕生した「芸術科コース」の1年目ということで、美術・音楽がたっぷり選択できる恵まれた環境でした。当時の友人とは感性的にも似た部分があり、今も変わらず一緒にものづくりを行ったり、企画を立てたりして交流しています。

現在の高校では、音楽・美術・書道と芸術教科が完全選択制になり、選んだ教科以外は選択できないことが多いみたいですが、子どもたちには、幅広い自己表現の知識を身につけ、自分の中の問々とした問題を浄化したり、様々な企画力を養えるようになってほしいですね。

私自身、人生の中で常に芸術や文学に助けられてきましたので、「表現教育」の重要性をこれからも伝えていければと思っています。

親子で対話のできる関係作り

高知県小中学校ＰＴＡ連合会・母親委員
小野 知 さん

今の子は傷つくのを恐れる傾向にあると思います。友達と遊ぶにしても行き当たりばったりでは遊べない、断られるのが怖いのか、きちんと約束して予定を確認してからでないと遊べないような感じです。携帯電話の影響かもしれません。

子どもが成長してきたら、頭ごなしに意見を言うのではなく、辛抱強く待つことも必要。何気なく言ったひとことでも、子どもには命令のように聞こえます。親子でものごとに対する捉え方が違っても、お互いに相手の意見を認め合える関係を作っていく。子どもは良く見ているので、生き生きとした親の姿を見せることも大切だと思います。

親、子ども、地域が一緒に成長しなければ

高知県小中学校ＰＴＡ連合会・母親委員
竹村 あずさ さん

今の子ども達も自分が高校生だった時も、根本的なものは変わっていないと思います。けれど、社会や子ども達を取り巻く環境が変わった事で、「自分で考えて行動する力」や「物事を自分で見極める判断力」が低くなっているなと感じる事はあります。

子どもたちの未来が親の生き方ひとつに左右されるという事を前提にすると、目の前の子どものあるがままの姿を全て受け入れる親の深い愛情や、親や学校関係者だけでなく地域の人間も見守り、大人が子どもを見捨てない環境を作る事が重要だと思います。大人も子どもも地域も、一緒に成長しないといけません。

人間に本当に必要なもの

県立追手前吾北分校ＰＴＡ副会長
仁淀川町立池川中学校ＰＴＡ副会長
井上 光夫 さん

自分たちが高校生の時との大きな違いは携帯電話でしょうか。おかげでパソコン操作も物怖じすることなくできるので、良いことなのか、悪いことなのかはわかりませんが。でも、そういうスピード化の時代だからこそ、あえて今の若者には地元に誇りと自信を持った人間に育ってもらいたいです。その地域ならではの暮らしの知恵、祭りなど、地元のスローな文化にも目を向けて好きになってもらいたいです。

今の世の中はなんでもお金お金ですけど、１００年前はそんなものがなくても生活できました。何が変わったのか、人間には本当に何が必要なのかを、親ももう一度考え直さないといけないと思います。

親もちゃんと出るときは出る

プチ・グラス代表
畠中 淳子 さん

自分が学生のころ親に反発していたので、過干渉にはならないようにしてきました。でも子どもだけでは解決できないことはたくさんあります。そういう時は親の出番。子どもからの「助けて」のサインを見逃さないようにしなければいけません。

しつけは親の責任です。子どもが犯した過ちは、親の罪であることを認識してほしい。社会的立場もあるかもしれませんが、真剣に子どもと向き合って、解決しなければならないと思います。経験から、ヤンチャをする子の気持ちも、いじめに遭う子の気持ちも分かるので、そんな子ども達のために何かしてあげたいと思っています。

人生の一番楽しい時期

主婦（『おいしい伝説』著者）、
食育アドバイザー
岡本 和美 さん

自分が中・高生の時はただただファッションとかに興味があっただけで、将来のことなんて考えていませんでした。だから今の中・高生も将来のことなんかで悩む必要はないと思います。人生でも一番楽しい時期なんですから。自分の娘にはよく「楽しいことを見つける名人になりなさい」と言っています。

しつけとしては、とにかく社会の現実を見せること。主人が経営者なので、働いている現場に連れて行ってトラブルなんかも平気で見せてました。そうすると、子どもは自分でいろいろと考えるようになるんです。自分で考え、生きていける力。これを身につけてもらえれば、中・高生でやりたいことが見つかってなくても大丈夫。

●これからのキャリア教育の行方

キャリア教育の新たな段階へ

中教審答申（2011年1月）を読んで

NPO法人 人と地域の研究所
理事長 **松永 健二**

大学卒業生に対して、「コミュニケーションが取れない」「社会性がない」「意欲がない」など社会人としての基礎的な力が著しく落ちていると言われてから久しい。昔からある「最近の若者は……」という議論には与しないが、他方で学生たちが多様に激変する社会のなかで自分で考え行動することがなかなかできず、「社会」とミスマッチを起こしている傾向が顕著になってきているのも認めざるを得ない。

「社会で自立して生きていく力」（「人間力」とか「社会人基礎力」とか呼ばれている）の育成は、従来、大学教育の意識的な課題ではなかった。その力は、入学前に獲得されているか、あるいは大学生活の中で自ら獲得していくことを前提としていたと思う。

私は大学教員の時代に学生の現実を前にして、大学教育のなかに「キャリア教育」（自律して生きる力を自ら獲得していくことを支援する教育。キーワードは「自律」と「協働」）を意識的に導入することが急務であると考え、「初年次教育」をはじめとする教養教育を中心とした大学教育改革に努めてきた。

しかし、それにもやはり限界がある。なぜなら、この「力」は幼児期からの長い年月をかけてその発達段階に応じて次第に形成されるものだからである。『答申』が幼児期から高等教育までの体系的なキャリア教育や高校教育（とりわけ普通科）におけるキャリア教育の充実の必要性を強調する意味もそこにあるのだろう。

行く末が不透明な21世紀社会で、その自律的な担い手として生きていく市民を育むことが現代教育の最優先の課題の一つである。私たち「NPO法人 人と地域の研究所」は高知市から委託された高校キャリア教育事業の取り組みを踏まえ、教育機関や地域・社会と協働してキャリア教育の充実のために引き続き努力を続けたいと考えている。

松永理事長による答申のポイント

2011年1月、約2年間の議論を経て中央教育審議会答申『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』が文科省に提出された。ここで、キャリア教育を中心に、答申のポイントをいくつか挙げてみよう。

＊「 」内は『中教審答申』からの引用。

ポイント①

これまでややもすれば混同されがちだった「キャリア教育」と「職業教育」をはっきり意味づけた。

「キャリア教育」とは「一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」、「職業教育」とは「一定または特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育」である。

ポイント②

幼児期の教育から高等教育まで、それぞれの発達段階に応じて体系的にキャリア教育を進める。

その中心として「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」などの「基礎的・汎用的能力」を確実に育成するとともに、社会・職業との関連を重視し、実践的・体験的な活動を充実する。

ポイント③

高校段階の、特に普通科におけるキャリア教育の充実の必要性についてかなりのスペースを割いて強調している。

普通科、専門学科、総合学科の生徒数の割合を見ると、普通科が70%を超え、そのうち高等教育機関への進学率が75%を超えている。高等教育機関への進学希望者の中には、将来の生き方・働き方について考えることを「先送りする傾向」が強く、多くの生徒にとって高校は高等教育機関への「通過点」となり、進路意識が希薄なままとりあえず進学している者がいる状況がうかがえる。しかし、「18歳という時期は、未成年ではあるものの、社会人・職業人としての自立が迫られる時期である」とした上で、だからこそ、高校修了時までに「生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度を身に付けさせ、これらの育成を通じて、価値観、とりわけ勤労観・職業観を自ら形成・確立させる」ことをキャリア教育の目標とし、その取り組みを充実させることが重要である。

ポイント④

キャリア形成には一人ひとりの成長・発達における様々な経験や人との触れ合いなどが総合的に関わってくることから、「横」の連携、すなわち教育に対する社会全体の連携の強化が必要であり、具体的には、家庭や地域・社会、企業などとともに若者支援に実績のあるNPOとの連携が不可欠である。

I love kochi 高知club2012

高校生・若者み〜んなに役立つ情報を届けます！

高知の企業でのインターンシップ、
地域づくり活動をおこなうインターンシップ、
大学生と高校生が企画するイベント、
活躍している社会人のセミナー、
よさこいチーム情報、
長期休暇中のアルバイト情報、……などなど

高知とあなたをつなぐ情報をメールマガジンでお送りします。

NPO法人　人と地域の研究所

E-mail lab@hito-chiiki.org
http://www.hito-chiiki.org

事務局
〒780・8040 高知市神田東赤坂 2607-7
TEL 088・831・0889　FAX 088・834・5783

研究所
〒780・8073 高知市朝倉本町2丁目17-47
高知大学　国際・地域連携センター内
TEL/FAX　088・855・5870

2012年1月28日発行

高知の仕事×高校生「高知マインド」で高知の担い手育成プロジェクト事業（高知市委託事業）